

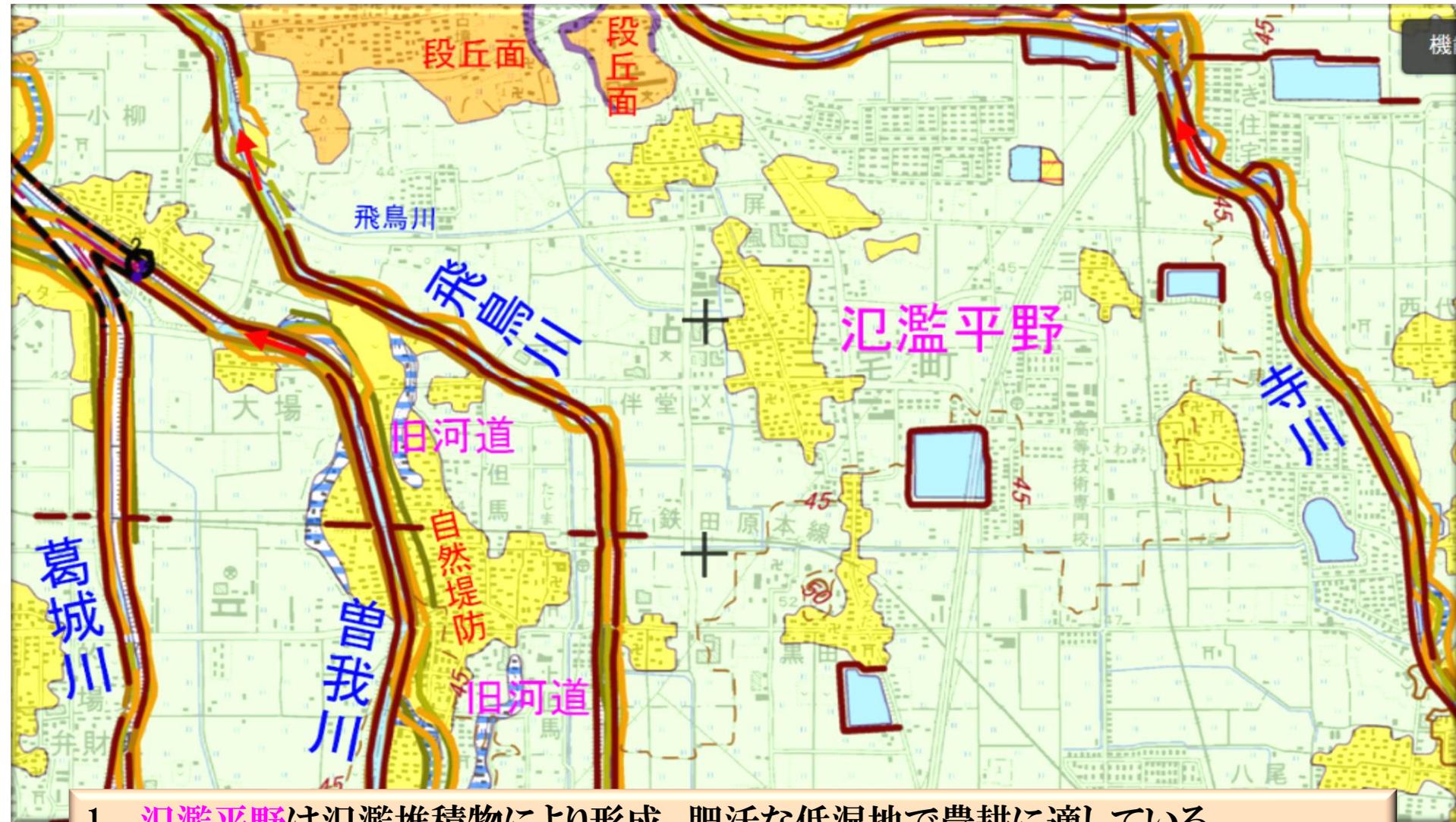
第1章

三宅町の地形

洪水は地形と気候が原因となって発生

地形治水分類図(三宅町)

※国土地理院作成図に筆者が加筆



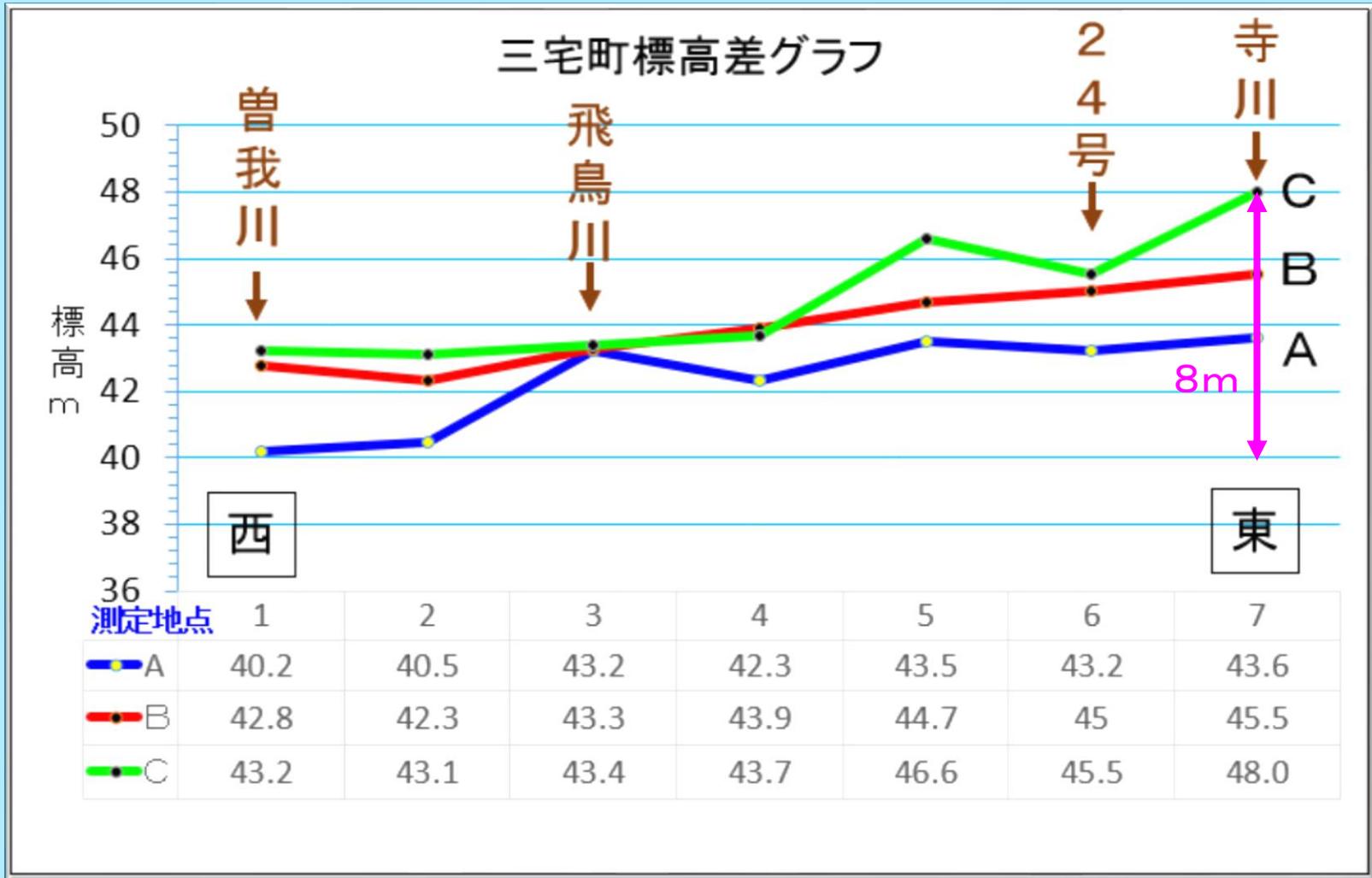
1. **氾濫平野**は氾濫堆積物により形成。肥沃な低湿地で農耕に適している。
2. **自然堤防**は、川が運んだ土砂が堆積したやや高台。乾いた土地で宅地向き。
3. **旧河道**は土壌が軟弱で地震による揺れが増幅され易く、**液状化**しやすい。

三宅町内の標高の測定

氾濫水は低い所へ向かう。各A、B、Cラインを西から東へ標高を測定



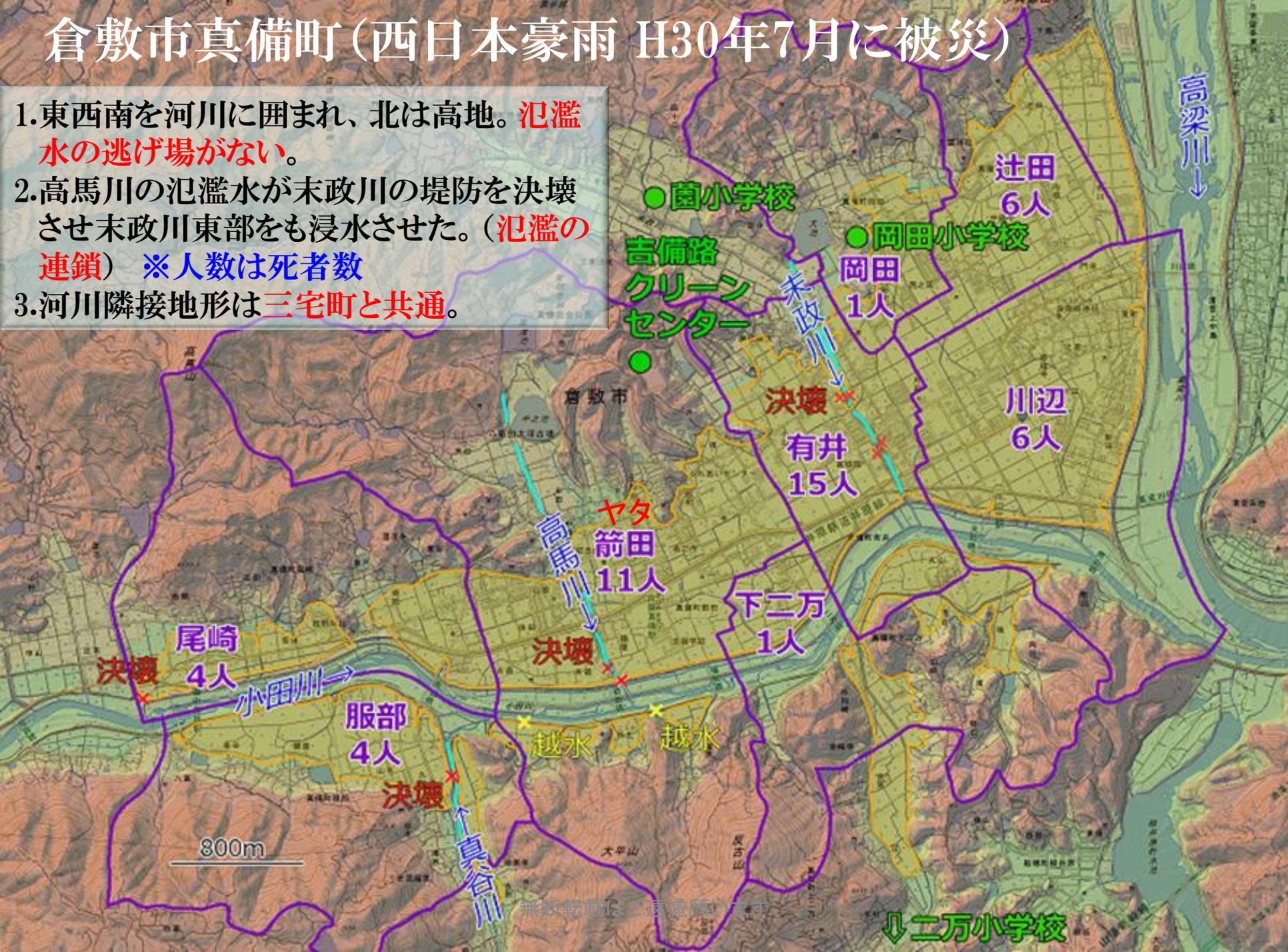
三宅町内の標高の測定



1. 町内は西下り、北下り。最低点A-1と最高点C-7の標高差は約8m。
2. 避難方向は標高の高い方角を目指すのが合理的と言える。

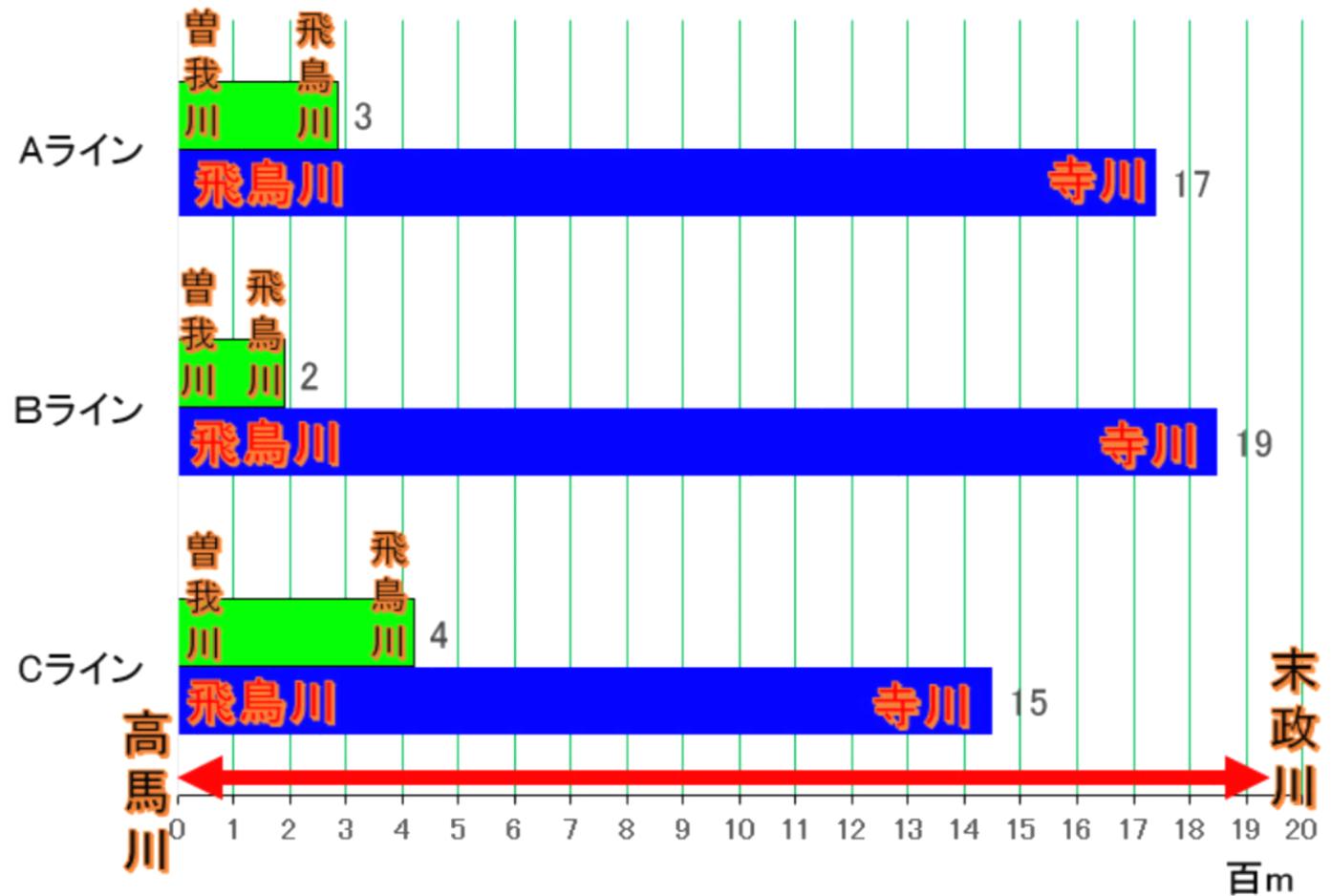
倉敷市真備町(西日本豪雨 H30年7月に被災)

1. 東西南を河川に囲まれ、北は高地。氾濫水の逃げ場がない。
2. 高馬川の氾濫水が末政川の堤防を決壊させ末政川東部をも浸水させた。(氾濫の連鎖) ※人数は死者数
3. 河川隣接地形は三宅町と共通。



氾濫が連鎖する危険性

隣接河川の距離



※ 倉敷市真備町において高馬川が氾濫し、その氾濫水が約2km離れた末政川の堤防を背後から決壊させた。

1. 飛鳥川の氾濫が曾我川の氾濫の引き金になる可能性は否定できない。
2. 寺川の氾濫が飛鳥川の氾濫の引き金になる可能性を否定できない。

まとめ（第1章）

1. 北に大和川、町内に三支流が縦断。これらの河川が**氾濫平野**を形成。
2. 氾濫平野は**低湿地帯**であり、**耕作地**に適している反面、**洪水リスクが存在**。
3. **河川の近接地形**は倉敷市**真備町**と**共通**。**河川氾濫の連鎖**に注意を要す。
4. 標高は**東方向・南方向**が高い。洪水時、標高の高い方角が**安全性が高い**。
5. 日頃から災害について、家族・地域で話し合う→**災害文化の醸成**。
6. 洪水時の**人命の安全確保**のため、日頃から**避難訓練**が必要となる。